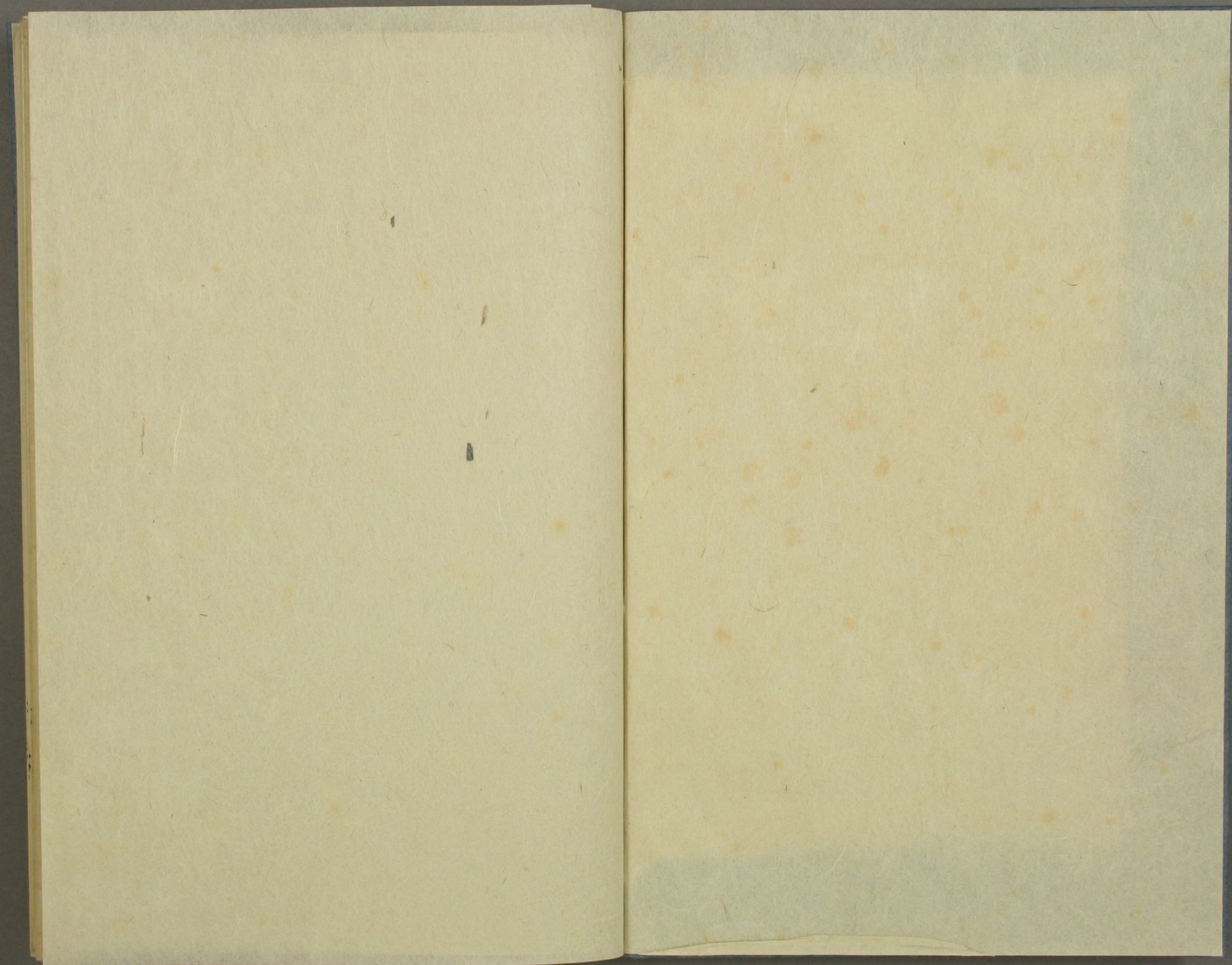




中村俊定文庫
文庫 18
110





歌
歌
全

歌
歌

歌

歌

歌

歌

歌

歌

全

一

俳諧白字留李叙

價以一音漢說法

衆生隨類各得解

蘭亭序

序

洛陽当能乃点者さく
とさきめさくより人こま

池西
言水

新町西哲教寺西下ル町

中尾
我黒

东洞院西後小沼瓦町

北條
固水

友替町通二条上ル町

磐
常牧

油出丸左町上ル町

招搖形
方山

东六條寺内

栗門
和及

仏光寺西土せ

無友
如泉

口條乃場玄珠庵

方山和及及友方さうしう留ちつとく点
ゆさうしうありまきこ想しとくは点
んいさうしうしてと島標までまきつ
先んふんまきこひ
さうしうはくしうけりた乃介物標も
いまこ世まきこまきこあひ
とそものさうしうはつれもあつらふ
まきこしうけりた乃介物標も
事流とて同しんありへき点
まきこはつれがめいりんやありあり
とまきこ乃若ありあり又なうたよさ
さけり志せと毒見ハあさうのす
りありとしうけりた乃介物標も



黒牧
黒
言
泉
三

黒泉
黒
言
牧
三

黒言
黒
言
泉
三

一
そわとておひかた
晩云乃志もさう
忘れり
○ 嗚呼在廣持あして
吾を吾迄を極
り此の中心乃
いまは初門乃
くあはくば一
テニサリ又各別
おも又志り寸故
え旅三毫集庚午
吐雲亭
天龍吟



卯乃花よ志乃まぬ
校布は
水

○ 言句狭布三テめつり

竹筒よ生て
菊

○ 黒弓桑句文は脇秋イカ、
● 評、弓復也朝日ニ早蕪交菊也
三言ト牧下園ト交ニキケリ泉ト文非ト知柯

飛鼓拍て嵐乃
二

黒 泉 園 言 牧
し じ じ じ じ

黒 泉 園 言 牧
し じ じ じ じ

黒 泉 園 言 牧
し じ じ じ じ

軍おとさぬり石月乃雪

故郷ハこそ松茸此包焼

秋ハ去る乃秋のさぬる

●黒日フルト大々々述懐ニナルヲモテイカ、
●評曰ク句ニヨルヘシ此フルサト非言イカ、
ヨ味フシ

黒 泉 園 言 牧
し じ じ じ じ

黒 泉 園 言 牧
し じ じ じ じ

黒 泉 園 言 牧
し じ じ じ じ

故郷乃文より松茸素門

●黒日サカシ一気味ハクシヤ
●評曰此詞カキキトトゲカタシ

何よとさぬりてつり香の風

●評曰チカク白ノ字ナシ疑ハ包焼ノツミシラ
ニホヒトヨマレシキルヘシ兼相カ筆ノヤヤミ分
●黒日サカシ一気味ハクシヤ
●評曰此詞カキキトトゲカタシ

牧 泉 言 黒
し し し

泉 牧 黒 言
し し し

夫し

寝て笑さるる〜

横よりぬきよ隣子と寝る

帆柱君ゆる舟とるる

言 泉 牧 黒
し し し

泉 牧 黒 言
し し し

牧 泉 言 黒
し し し

も愛も別染よや〜世の

お好人は西風あるま

七夕をねむる女乃移るる

○言日ハナレ直シ

四

○泉曰西風夏也秋三用三思シトアリテ一点アリ
●評曰其ナラハ三句前ホトキスアリ同季
五句去ニアラスヤ又西風醫書三秋也世ニテ
秋泉ヒトリ交ナリイカハ

言 泉 黒 周
山 山 山 山
牧 除

周 黒 泉
山 山 山
言 牧

周 泉 牧
山 山 山
言 黒

すあろよお乃ぬま〜此月

夏初て花を果るる〜

言 泉 黒
山 山 山
牧 除

蕪後よ色乃葉〜川勢

イキラヒ

周 黒 泉
山 山 山
言 牧

周 黒 泉
山 山 山
言 牧

周 黒 泉
山 山 山
言 牧

法墓守のむすまぬの歌子白水

あ〜と泣と〜歌守遠

● 許目コホトツビタルコトナクニ
不思議也

此歌ある其國乃境

○ 此國の境ありて水也
言 あり

五

言 牧 黒 泉
|||

泉 黒 言 牧
|||

周 黒 泉 牧
|||

秋乃松子の日此為極す
コトヲキ
祝 此 酒

秋乃松子の日此為極す

○言 泉 松 子 日 此 為 極 す

无食あけくる為柑乃本

牧 言 泉 黒
|||

周 黒 泉 牧
|||

言 黒 泉 牧
|||

目とあひ何乃むくひそ
松子の

泉ハ
新元

○言 泉 松 子 日 此 為 極 す

うる負義よつまて
新元

調言黒泉牧
川

牧上
周黒泉
川

黒周言牧泉
川

風こびりみづのなみづ

息ひづくちの世を継ぎていく

おのちのまはりの日は

泉調言黒牧
川

黒牧周泉言
川

牧泉言黒周
川

周の路はりの深みありく深み

深みはり古の池の水は

たらしきならむ心は風

牧言黒周泉

牧言黒周泉

牧言黒周泉

公藤よすきこてんあけり眉目

○三回スあしめ伺やこ
みめよき

うまきと花乃媒^{ナカタツ}奥乃沈

伽羅よすびー^{コカ子ヤマブキ}令除^{コカ子ヤマブキ}摩

如泉 二十九点^〆 長七珍七

言水 二十九点^〆 花長三長六珍十

園水 二十八点^〆 朱二長六珍十

常牧 三拾壹点^〆 朱長一星長二長四輪九

我黒 二十六点^〆 朱二長三珍六

方山 留圭

和及 同 如前

けとまらるるりむりー小お撲
 あどておーいふるささひ
 ちちあはれお遠乃うさか
 りしを鞠志めんともり
 さわりのとせむりうーまき季を
 ーこきさあてまもーるり
 ーらてとまふよあひさあ
 ーや舞弄乃もとてすうふあ
 らすさるのれんを、大自在、
 天舞もてーさせまふひもくひ
 乃乃長していやーあつり
 赤信那務乃悉んもやけりけ
 やさうこあーちめのみ南ま

近日出る点者記

江戸

大坂

大津

調和

來山

尚白

其角

万海

西吟

一品

六翁

晚翠

嵐雪

才磨

尾列 荷兮

立志

西鵬

日 横松

叢
言
山
園
常
下

弦ふよよゆりこるすはあふ

●評目キワ下久長忘ノ句ナリ

比教下ー翠也経新舌の草

勿論義非論

●評ニ曰己ニ色クノト点アレ共ハ
ツミル所作者モ百ノ心ヲシラヌ

不同見別

不須和會

雷亭主跋

